

PTA新聞作りを 振り返って

奄美市立朝日中学校 PTA



PTA文化部長 田中 愛

■はじめての文化部長

前文化部長から引継ぎ、初めての部長としてのPTA新聞作りでした。文化部長としては小学校から合わせると7年目になるので、それなりに経験はあるつもりで部長を引き受けました。しかし部長と部長では責任の重さが違いました。私の進め方次第で1年間スムーズに発行できるか、できないかという状況はとても厳しい立場でした。

■文化部テーマを決定

PTA新聞を作成する上でいちばん大事なことは、はじめにこの年度のテーマ(朝日中学校で言う「文化部テーマ」)を決めることだと思います。

■紙面作りの工夫

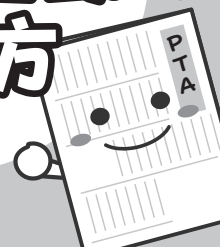
朝日中学校のPTA新聞は学期ごとに発行しており、年3回の発行になります。この中で「わ」をテーマに紙面作りをするのですが、1学期の紙面では「反抗期」、2学

期は「人権」、3学期は「いじめ」という小テーマをメインにしました。中学生の子を持つ親にとつてはどれも身近な問題ですが、普段は周りの人と深く話す機会が少ないのではと思われました。この中

で「反抗期」と「いじめ」については保護者・子どもへのアンケートを取り、その結果と専門的な情報を紙面で紹介するという方法で行いました。このやり方により、自分が答えた結果がどのように反映されたのか、そして他の人たちはどのような意見なのか、興味をもって新聞を読んでもらえると考えています。このやり方はアンケートの作成から配布、そして回収と、学校にも協力して

特集

PTA 広報活動の あり方



はないかと思えます。

■今年度の紙面作りへ

28年度に続き、今年度も文化部長としてPTA新聞作りにも携わることになりました。この新聞が発行されるころには、1学期の紙面作りが始まっていることでしょうか。昨年度の反省もありませんのでそれを踏まえてテーマの選定や内容など、今年度の部員さんと一緒になつて楽しく活動ができるように進めて行きたいと思つています。そして私たちが作るPTA新聞で、子どもたちがよりよい学校生活を送ることができるよう今年度も活動してまいります。

広報部未経験の私が2年前、部長という大役を任されることになりました。皆さんもご経験があまりかと思いますが、静まり返る役員決めの際最終手段としてのくじ引き。

ドキドキしながら選んで引いたくじには「当選」という本来は縁起のよい文字を目にした日から始まった試行錯誤の取組をご紹介します。

■PTA新聞の目的とは

新聞づくりは初めて携わる私が、本校PTA新聞を刷新するきっかけとなったのは、市のPTA新聞づくり研修会に参加し、基礎理論やレイアウトを学んだことです。その中で、PTA新聞は学校新聞とは違う役割があることを教えていただきました。まるで学校新聞のような本校PTA新聞。そこから改善点を見つけ、どのような新聞を発行したいのかを努力目標として、以下の2点を掲げ活動を開始しました。

・PTA活動の楽しさや現状を伝え会員がPTA活動への参加意欲を持つる広報誌づくりに努める。

・親子で読める企画や資質向上へ繋がる内容を掲載し関心が高まる紙面づくりを図る。

■会員参加企画で関心度UP!

学校行事での子どもたちの感想文が今まで、多くのスペースを占めていましたが、各専門部の活動を取材しPTA内容を中心に掲載しました。そして、3つの連載企画も立ち上げました。

◇食で育む親子の絆
会員の朝食レシピを写真と一緒に掲載しました。子どもたちへ配布された真と一緒の掲載しました。子を思う親の気持ちがレシピと一緒に綴られた記事です。ぜひ子どもたちにも読んでほしいです。

◇エール便
本校卒業生に原稿を依頼し、高校生活や頑張っている姿、受験を経験したからこそ後輩に伝えたい想いを掲載しました。在学中に身近に関わってきた先輩からの応援メッセージは、とても励みになるようです。

◇仕事場
PTA新聞は、まず子どもたちへ配布されます。受け取った子どもたちが読んで、子どもから

◇仕事場
働くことの最も身近な先輩である親の仕事場を掲載しました。外側からはわからない職業の本質が見えてきて、今後の進路選択や将来の夢を持たせることに役立つでしょう。いとの期待を込めた企画です。

■内部広報・外部広報
PTA新聞は、会員に

保護者へ手渡され、そこから会話へ繋がるよう願いを込めて制作しています。

切り入れ、今後も学校、家庭、地域をつなげるPTA新聞を制作していきたいと思えます。

切にしつつ新しい発想を取り入れ、今後も学校、家庭、地域をつなげるPTA新聞を制作していきたいと思えます。

鹿児島市立和田中学校 PTA

PTA広報部長 塩根 智美



親子をつなぐPTA新聞を目指して ～会員参加企画で紙面イノベーション～



校長先生とPTA会長の似顔絵の表紙

PTA新聞作りで一番大変で難しかったところだと思えます。その分充実した紙面内容になり、家庭での話題と



生まれることが出来たので

会員参加の連載企画

